

研究協力をお願い

昭和大学附属烏山病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

急性期病棟における統合失調症患者に対するプレクスピプラゾールの中期的使用成績並びに、ベンゾジアゼピン系薬剤の処方量の後方視的調査

1. 研究の対象および研究対象期間

2018年8月から2022年8月までの4年間に、昭和大学附属烏山病院スーパー救急病棟においてプレクスピプラゾールを初めて投与して治療された統合失調症の患者さん。

2. 研究目的・方法

統合失調症は、再発、増悪を来たしやすく、長きに渡って抗精神病薬の内服が必要な疾患です。抗精神病薬は、1950年代にクロルプロマジンが合成されたことに端を発し、以後、様々な抗精神病薬が開発されてきました。プレクスピプラゾールは、2018年に日本でも適応が認められた抗精神病薬であり、新しい薬剤です。短期使用成績の報告は増えていますが、中長期使用成績の報告は少ないです。よって、昭和大学附属烏山病院スーパー救急病棟に入院した統合失調症の患者さんにおいて、24週間以上という中期的な服薬継続率、副作用出現率を検討したいと考えています。また、統合失調症の薬物治療において、単剤治療が標準的と言われていますが、プレクスピプラゾール投与群における単剤化率、並びに併用抗精神病薬を確認し、患者さんの背景情報から単剤化出来なかった要因を検討します。

また、統合失調症の薬物治療において、ベンゾジアゼピン系薬剤の併用は短期間であれば否定されていないが、依存性もあることから、減量や中止に至らずに、漫然と処方されているケースも目立ちます。プレクスピプラゾールを用いた薬物治療における治療初期と薬剤調整後でのベンゾジアゼピン系薬剤の投与量を検証したいと考えています。

結果として、統合失調症に対して我々がやっている様々な治療方法と安全性を検証しより効果的な患者評価及び治療法を探索することにより評価と治療についての学術的構築を行うことを目的としています。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2025年12月31日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

カルテ番号、生年月日、イニシャル、生活歴、家族歴、既往歴、入院回数、使用薬物、入院形態、入院時症状、治療内容（使用薬剤、電気けいれん療法）

5．外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6．研究組織

研究責任者 昭和大学附属烏山病院 新村 一樹

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学附属烏山病院 氏名：新村 一樹

住所：東京都世田谷区北烏山 6-11-11

電話番号：03-3300-5231